

「名古屋駅地区再開発計画等のスケジュール変更ならびに現計画の再検証および見直し着手について」 社長会見説明内容

・日時 2025年12月12日(金) 15:30～

本日はお忙しいところ、また会見当日のご案内にもかかわらずお集まりいただき、ありがとうございます。

当社は、名古屋駅地区再開発計画および関係する諸計画について、5月26日に共同事業者間での事業化決定をお知らせして以降、事業推進に関わるさまざまな業務を進めてまいりました。

しかしながら、このたび、解体および新築工事の施工予定者の選定過程におきまして、応募参加者から人材確保難のため計画に対応する施工体制の構築が困難であることを理由とした入札辞退届が提出され、当初予定していた来年度中の解体工事に着手できない状況となりました。関係者の皆さまに、いち早くこうした事実をお伝えすることが必要と判断したため、この場を設けさせていただいた次第です。

この状況を受けまして、今回、既にお知らせしておりました現行のスケジュールを変更するとともに、計画の再検証および見直しに着手することといたします。

まず、スケジュール変更についてご説明いたします。

先ほども申し上げましたが、計画における応募参加者から、人材確保難により現計画での解体および新築工事の施工体制の構築が困難であることを理由に、2025年11月26日付で入札辞退届が提出されました。これにより解体工事着手等が大幅に遅延することが確実となり、スケジュールの変更をせざるを得ない状況となりました。

計画では、解体着工は2026年度、新築着工は2027年度、1期本工事竣工は2033年度、2期本工事竣工は2040年代前半としておりましたが、今回、全て未定に変更いたします。

次に、計画の再検証および見直し着手についてご説明いたします。

この計画は、延床面積52万㎡という大規模な事業であり、周囲を鉄道や地下街に囲まれた敷地という難易度の高い工事であります。さらに、10年以上の長期にわたる工事期間なども勘案して、特殊な条件に対応できるゼネコンを対象に施工予定者の選定を進めてきました。

本年3月の事業化決定に至るまでの約2年間、日建設計さまや今回の応募参加者であるゼネコンも技術協力者として参画し、施工計画や工事工程などを詳細に検討し精査を進めてきました。工事費につきましても技術協力者とともに検討し、さらに高騰リスクも認識して相当の予備費も見込んだ上で事業化を判断してまいりました。

しかしながら、このたび応募参加者から、この計画が持つ事業規模と工事の難易度に対応できる施工体制の構築が困難であるとの申し入れがありました。さらに応募参加者から

辞退届とともに参考として提出された見積もりは、再開発事業費のうちの工事費が大幅に増額しておりました。内容は現在精査中ですが、倍額に近いものとなっております。このようにスケジュールが当初予定から大幅に遅延する見込みとなったこと、工事費に関しても極めて状況の変化が激しいことなど、事業を推進する前提が大きく変わったことを踏まえ、現在の計画を精査、再検証するとともに、見直しに着手することといたしました。

再検証および見直し対象となる計画は、「バスターミナルの再整備を含む名古屋駅地区再開発計画」と「名鉄名古屋駅再整備計画」です。

続きましてグループ既存施設への主な影響についてです。

名鉄百貨店本店の営業終了については、当初予定通り 2026 年 2 月 28 日を予定しております。一方、今回のスケジュール変更や計画見直しの着手を受け、営業終了をご案内しておりました名鉄バスセンター、名鉄グランドホテル、スカイパーキング等については営業終了時期を未定とさせていただきます。

最後に今後の見通しについてです。

本日までご説明させていただきました状況の変化を受け、ただちに、計画の再検証および見直し検討に着手いたします。また共同事業者とも本件について協議を行ってまいります。なお、見直しの方向性などは、まとまり次第、改めてお知らせいたします。

今回の結果については大変重く受け止めております。

これまで本事業に多大なご支援ご協力いただいた関係者の皆さまにはご心配をおかけし、地域の皆さまにおいても名古屋駅地区が大きく変貌する未来を楽しみにしていただいていたかと推察しておりますが、本事情をご賢察の上、何卒、ご理解のほどよろしく願いいたします。

既にお知らせしていた再開発計画のスケジュール変更等をせざるを得ない状況となりましたが、計画を白紙にするわけではなく、計画の再検証と見直しに着手するものです。名古屋が“選ばれる都市”になるため、公共交通の利便性向上と、魅力ある「まちづくり」「地域づくり」に取り組むことは当社としての使命であり断固たる決意を持って今後も取り組んでまいります。

説明は以上となります。

最後に私より一言申し上げます。

私自身、20 年近くこの計画に携わり、当初から非常に難しいプロジェクトであると認識していました。それでも幾多の困難を乗り越え、多くの関係者の協力を得て、今年ようやく地権者とともに事業化の決定にまで漕ぎ着けることができました。

施工予定者選定の前から、施工予定候補者も含めたゼネコンの技術協力者とも十分に時間をかけて検討を重ね、精査してきました。

いよいよ建設着手に進もうとする段階で、このような事態に直面するとは全く想定しておらず、無念の思いでいっぱいです。

ただちに計画の再検証と見直しに着手いたしますが、公共交通の利便性向上と、魅力ある「まちづくり」「地域づくり」に取り組む姿勢は、私の中で、今後も決して揺らぐことはありません。

しばらく時間をいただくこととなりますが、26年度中になんらかの方向性をお示したいと考えております。交通事業者としての使命を果たし、地域の魅力をさらに高める計画へと再構築していきたいと、私は考えております。どうかこれからも、皆さまの力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。